

『産福連携』伝統工芸と障害者の

共生社会実現に向けた可能性を探る

結城紬と障害者就労支援を融合させたい



館野 徹弥
(たての てつや)

録画映像
はこちら



障害者就労支援について

市障害者福祉センターでの一般就労への移行について。

一般就労に移行しにくい理由についてどのように考えていますか。

自立につながりやすい作業を取り入れる事の必要性の有無について。

障害者と伝統工芸との共生社会の実現、産福（産業と福祉との）連携について。

障害者数、就労支援施設利用者数について。

保健福祉部長 市障害者福祉センターでは、就労継続

保健福祉部長 当該施設で

保健福祉部長 自立につな

市長 障害者の方が地元の

保健福祉部長 令和5年4

り、主に花づくり事業を行

先としては、花卉農家や花

ることの必要性は強く感じ

通じ、自信や生きがいを持

人となっている。

作業内容を生かした一般

が考えられる。

利用者の特性に合わせ、

ことは理想的なことである

就労支援施設利用者数は、

これまで一般就労に結び

いては、花卉農家等の数は

のあること、好きな作業な

様々な形での産福連携が展

は149人となっている。



つなげられるような支援を

開けるよう、しっかりと